

重点事業編

4 計画事業

基本目標5 ゆたかな心と創造性あふれる人を育む街さっぽろ < 3件 >

意見の概要	市の考え方
<p>『特別支援教育研究モデル事業』 1件</p> <p>・障がいのある子どもたちがパソコンやインターネットに早くから触れ、自分の可能性を引き出したり、高められることを体感することはとても重要。特別支援教育研究モデル事業として、NPOと行政や学校との協働による盲・聾・養護学校へのパソコン利活用支援事業を提案する。</p>	<p>「特別支援教育研究モデル事業」は、盲・聾・養護学校で学ぶ子どもが、地域の子どもたちとのふれあいなどを通して地域で生きていく力をつけていくために、地域の学校を中心としてどのような支援が必要なのかを調査・研究するものです。</p> <p>札幌市の各学校では地域の人材などの活用に取り組んでおり、パソコンの利活用についても同様に、学校の必要に応じて、NPO等との協力も今後進めていきたいと考えています。</p>
<p>『聴覚障がいのある子どもへの対応』 1件</p> <p>・教育においてはノートテーカー（聴覚障がいのある人のために筆記援助する人）配置の義務付けなどを積極的に行ってほしい。</p>	<p>聴覚障がいのある子どもの教育については、通級指導教室の整備拡充を図ることにより、聴覚の活用などを図るための専門的な教育の充実を目指していますが、筆記援助する役割のノートテーカー配置の義務付けについては、現状では難しいと考えています。</p>
<p>『市立大学設置事業』 1件</p> <p>・情報のユニバーサルデザインをビジネスとして体系化して確立することを目指し、市立大学の研究分野として産学官民が連携して、札幌の新しいブランド戦略として取り組むべき。</p>	<p>(仮称)札幌市立大学基本計画では、環境や健康、情報等をキーワードに、デザイン・看護両学部の教員がユニバーサルデザインなどの視点に立った共同研究に積極的に取り組み、新しい研究領域の開拓を目指すとともに、デザインやIT関連の産業振興策と連携した地域ブランドの構築等を目指すこととしています。</p>